

共にあり、共に感じて

病院は、病や老い、心身の機能の衰えと いった人間誰もが抱える「生命」と「生活」 の切実さが一層意識される時間と場所です。 診断や治療の真剣な場であるがゆえに、そ の場での個人の立ち現れ方は、患者や家族、 医療者などの役割に特化しがちです。『びょ ういんあーとぷろじぇくと』は、そうした医 療の場に長い時間をかけてアート作品を介 在させる活動を2008年から続けてきまし た。アートは、周囲の環境を生き生きと受 け止め、その関係の中で各自の意義や生活 を築いている人間の感受性を前提にしてい

ます。インテリアやケアという側面のみな らず、アートがあること自体が人々にその場 での立場を超えて「感受する主体としての人 間」を無言のうちに呼び覚ますと言えるかも しれません。

『びょういんあーとぷろじぇくと』では、2019 年から2021年冬までの約3年、医療の場を、 こころの通った温もりの感じられる人間らし い空間に近づけようと、美術家17名による 5回の展覧会とイベントを継続開催中です。 その3回目となる今回は「はな・うた・さんぽ」 がテーマです。小さかった頃のお馴染みの

道、陽だまりで触れた石の暖かさ、よく口ず さんだ歌、日常を当然のように享受してきた 記憶の連なり。楽しい記憶や悲しい記憶。

アートの介在によって病院で過ごすすべての 方々の時間に、そんな彩りが生まれることを 願っています。そして、この企画の主旨に賛 同し参加されている多くの作家やスタッフの 方々の思いが、作品に出会う人々と共に今年 も豊かな場を創り上げることを願っています。

TEXT

北海道大学大学院 メディア・コミュニケーション研究院

研究員 加藤 康子 氏



こころを結ぶ通信箱

コロナ禍により院内で の面会等が制限される 中、ご家族、医療スタッ フ、アーティストの心 を結ぶ「言葉の箱」を 設置しました。

びょういんあーとぷろじぇくと19-21展 全スケジュール(予定)

vol.1 2019年 小川豊 小山恵稔 佐藤隆之

vol.2 2020年 上嶋秀俊 野村裕之 山田恭代美

vol.3 2021年 會田千夏 瀬川葉子 日野間尋子 藤山由香 vol.4 2022年 伊藤幸子 奥野侯子 佐藤綾香 高橋佳乃子 vol.5 2022年 安藤文絵 小林麻美 八子直子

札幌第一高等学校 合唱部からのメッセージ





私達の合唱が皆さん の笑顔につながると うれしいです。また病 院でお会いできる日 を楽しみにしています。

https://bit.ly/39qCvux



催: びょういんあーとぷろじぇくと

援: 札幌市 札幌市教育委員会

(公財)道銀文化財団 (公財)北海道文化財団 NPO法人市民と共に創るホスピスケアの会

所: 札幌ライラック病院

札幌市豊平区豊平6-8-2-1

011-812-8822 http://www.lilac.or.jp

会 期:2021.5/31(月)~10/1(金)12:00~18:00

マ : びょういんあーとぷろじぇくと19-21展(第15回) vol.3-『はな・うた・さんぽ』

アーティスト: 會田 千夏 瀬川 葉子 日野間 尋子 藤山 由香

テキスト: 加藤 康子 森 合音 表紙絵: のぶこ(北の峯学園)

展 示:吉田恭子 デザイン: 井上 始子 撮影:山岸靖司

連

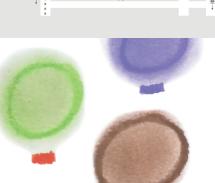
先

ټ びょういんあーとぷろじぇくと代表 日野間 尋子

■ hpj2021@hinoma.com

絡 • www.facebook.com/Byouinatopurojekuto

www.hinoma.com/hospitalart/









































會田 千夏 Aita Chinatsu

1980年、看板屋の一人娘 として生まれる。両親の 「筆」を使う仕事の環境の 中で生れ育ちました。父親 が歌う子守唄は「ゲゲゲの 鬼太郎」、好んで母親に読 んでもらった絵本は赤羽末

吉・絵の「舌切り雀」。そんな影響からか、子供の頃から不思議な話 や空想が好き。また、喘息発作で幼稚園、学校を休むことが多かっ たせいで、「絵を描く」という一人遊びは得意な方です。そのまま 大人になれたことに感謝しています。「はな・うた・さんぽ」では、 その日その時に感じた気持ち・見つけた物語を、色や形にしていき たいと考えています。札幌、東京での展覧会の他、北海道新聞文化 面・池澤夏樹エッセイ「天はあおあお 野はひろびろ」挿絵担当。



1962年、夏、旭川市生 まれ。札幌市在住。5歳 の時、家の近くにあっ た「絵画教室」で初め て水彩絵具に触れ、水 に色を混じり合わせる 遊びに夢中になる。



短大の工芸美術科を卒業後、1986年より札幌、東京にて個展、 グループ展。2000年から2006年まで欧州でのアートプロジェ クトに参加。その間、芸術療法士(音楽/美術)との出会い、共 同制作を通して「ケアとアート」の接点に注目するようになる。 札幌に戻り、障害者支援施設で支援員として働く傍ら、2008 年、友人らと『びょういんあーとぷろじぇくと』を立ち上げる。 アートが、病院に関わる皆さんの気持ちを和らげたり、結んだ りする一翼となって働いてくれることを願います。



瀬川 葉子

Segawa Yoko

1955年、札幌生まれ。札幌在住。 子どもの頃、祖父母の住む定山 渓温泉で豊平川と森林に囲まれ た自然の中で過ごす。子ども絵 画造形教室の仕事をしたことで、 子どもが造る気持ちを意識する ようになる。しばらく絵から離 れていたが、50代になり、事務

仕事のかたわら、メモ用紙や封筒に小さなカットを描き始める。紙ゴ ミの箱やテッシュペーパーの箱に色を塗ったりしながら、小さな出来 事を重ねるようにして作品作りができることに、ささやかな喜びを感 じる。体調により身体が受け入れる色や形に変化があることを思っ ている。今回、病院のエントランスに展示させていただくことになり、 一斉に花々が咲き、清々しい初夏の札幌の空気を表現したいと思う。

藤山 由香

Fujiyama Yuka

1974年、札幌生まれ、札幌在 住。幼少より絵を描くことが 好きで、高校は美術コースを 選択。美術部にも在籍し、多 くの刺激を受ける。卒業後、 金融機関に勤め、3年後退職。 アルバイトをしつつ美術大学



の通信教育で学ぶ。夏の面接授業を東京で過ごし、札幌では自然がいかに身 近であったかを改めて実感。大学卒業後、ギャラリーミヤシタのオーナーと 出会い抽象画を描き始める。色の持つ美しさや調和に面白さを感じ、同ギャ ラリーにて青や白を基調とした作品を毎年発表。近年は川沿いを歩く機会が 多く、空を眺め、川風を受けながら季節の移り変わりを日々肌で感じ、作品に 反映させている。心穏やかに、すこやかに、優しさが溢れることを願って。

「はな・うた・さんぽ」展に寄せて

聞こえて、

誰かが少しだけ幸せ

15

7

TEXT

音

四国こどもとおとなの医療 独立行政法人国立病院機構 ください は 上家の風 開けば な・うた・さんぽ」 見えてくる唯 景 です。 ぜひ 展 お どれ 無 ŧ

0

に尽きると思います。 らい芸術の力を信じているの だったように。 いるから。 るその力の源は、 分に 届け でも諦め なることを彼女は ることは簡単 いつか 芸 な その人がどれ がのカ の自分もそう いで続け では を あ 信じ 病院 5 ŋ

た「び と」もそう。 かにそこに るでもなく、 から新 かに もそうでした。 術家、日野間尋 ることを待っている。 か 居 間 を押 ŧ 心 ょういんあ 佇 な 地 し付けるでもなく、 しい風や香りや ()んでい 07 植物の・ のになんとも言えな 作品たちはだだ、 良 さを感じまし いつか る。 私は彼女と会っ 子さんとの ーとぷろじぇく ようにそっ 彼女が 扉 音 開 が 楽 開 が た 静 か

に似ています。 は 一つの \mathcal{O} ア 新 ティストに出会うこ (1 屝 を開くこと